

2024 年度 事業計画

役員会

目的 助産師の資質向上を図り、地域母子保健に貢献する。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 営基盤の確率と強化</p> <p>2. 地域での助産師会活動支援と信頼関係の構築</p> <p>3. 活動の広報と組織強化</p> <p>4. 近畿地区研修会開催</p> <p>5. 災害時の体制整備</p> <p>6. 助産師会組織運営基盤の整備</p> <p>7. 福利厚生</p>	<p>1. 1) 新組織による、業務の見直し 2) 定款、規約の見直し 3) 理事会、三部会、委員会、係会議への協力</p> <p>2. 1) 行政他団体との関係性を深める 2) 行政、他団体の会議、研修会への参加 3) 行政、他団体からの業務依頼協力 4) 学会での演題発表</p> <p>3. 1) 会員の獲得(145名) 2) HP、SNS を活用しタイムリーな情報提供を行う 3) 実技を伴うスキルアップ研修会を継続させる 4) 三部会交流を活発に行う(zoom 座談会等)</p> <p>4. 1) 近畿地区研修会の企画と運営 2) 都道府県助産師会への広報活動</p> <p>5. 1) 県内行政と医療機関、他団体との連携の確率 2) 会員情報管理システムを構築する 3) 近畿地区助産師会との連携、協力体制の強化 4) 避難所としての事務所機能の見直し ①災害時活動支援物品の備蓄と保管 ②事務所(避難所)マニュアルの作成 5) 災害支援助産師の育成</p> <p>6. 1) 定款、細則の見直し 2) 倫理委員会マニュアル作成</p> <p>7. 1) 表彰者推薦 日本助産師会会長表彰 県看護功労賞功労賞</p>	

2024 年度 事業計画

助産所部会

目的 助産所の安定した運営

目標	計画・具体策	評価
1. 出産費用保険適応化への対応 2. 産後ケアを含む地域連携の充実 3. 有害事象ゼロと事故防止 4. 災害対策の強化	1. 1) 保険適応化の動きについての情報収集分析共有を行う 2) 保険点数についての知識を深める 3) 保険適応化を想定したカルテ等の準備を各施設の状況に応じて行う 2. 1) 産後ケアに関わる研修会に参加し知識・技術の更新に努める 2) 利用者の利用目的や背景・アンケートから実態把握を行い、求められている産後ケア施設としての充実を図る 3) 地域子育て世代包括支援センターとの連携強化を行う 4) 各施設でのヒヤリハットを安全対策委員に報告し検討会を開催する 3. 1) 各種ケアマニュアルを作成しそれに則った適切なケアの実施 2) 公平な助産所安全管理評価を実施(年1回)する 3) 共有すべき事例の症例検討を行う 4) 「NCPR」、「J・CIMELS」等の研修会に積極的に参加する 5) 実際の現場を想定したロールプレイングを各施設、定期的に行う 4. 1) 日本助産師会作成の「業務継続計画策定(BCP)」を参考に各助産所の現状に合ったものを作成する。 2) 災害対策委員会提案の必要物品リスト作成を確認・共有し整える 3) 災害時の具体的行動計画を部会で検討する 4) 奈良県助産師会の災害訓練に参加し、その結果をまとめ検討対策を講じる 5) 災害研修に参加する	

<p>5. 嘱託医療機関との連携整備と契約継続</p>	<p>5.</p> <p>1) 助産業務ガイドラインを元に嘱託医療機関と協議し各施設に応じた包括的指示書を作成し遵守する。</p> <p>2) 後方支援病院等の研修受講する</p> <p>奈良県産婦人科実地臨床研究会</p> <p>奈良医大周産期症例研修会</p>	
<p>6. 関連団体との信頼関係の構築</p>	<p>6.</p> <p>1) 奈良県周産期医療協議会に参加する</p> <p>奈良県周産期年報編集委員会に参加する</p> <p>母子保健推進会議に参加する</p> <p>2) 各種会合等に積極的に参加し「顔の見える関係づくり」に努める</p>	

2024 年度 事業計画

保健指導部会

目的 地域における母子支援活動を安全に実践できる力をつけ、母子及びその家族に寄り添うことができる。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 安全で安心な保健指導、母乳育児支援を行う。</p> <p>2. 地域母子保健に携わる助産師として質の向上を図る。</p> <p>3. 都道府県保健指導部会集会、特に近畿保健指導部会集会と連携を図る。</p> <p>4. 地域における行政・関係機関の動向を知る。</p> <p>5. 保健指導部会安全マニュアルを定着させる。</p> <p>6. 訪問事業以外にも幅広く活動を展開できる人材の確保を目指す。</p> <p>7. 災害発生時の安否確認を適切に行う</p>	<p>1. 本部で統一された安全評価を使用して評価を行い、全国の統計に参加する。</p> <p>2.</p> <p>1)年間6回の保健指導部会集会について、参加増員を見込んで検討する。</p> <p>2)希望研修を教育委員会とともに運営する 「発達障害を持つ児の保護者や家族への支援」(仮) 田中桜子先生 臨床心理士</p> <p>3. 全国及び近畿地区保健指導部会集会に参加し、部会集会で伝達・共有し、課題の解決に努める。</p> <p>4. 委託訪問係と連携し、地域における行政・関係機関の動向を知り、部会員が安全に仕事に取り組めるようサポートする。</p> <p>5. 保健指導部会安全マニュアルに災害時の安否確認マニュアルを加え、安否確認ツールとしての BAND の使用方法について具体的に決める。</p> <p>6. 先輩助産師による技の伝承プロジェクトを継続する。実践力を養うスキルアップ研修を企画し、産後ケアやアウトリーチに参入できる人材育成に努める。</p> <p>7. BAND を使って安否確認を行う。</p> <p>1) 日ごろから操作に慣れるため、BAND を利用した情報発信を行う。</p> <p>2) 安否確認に気が付けるように通知する方法などを丁寧に周知する</p>	

2024 年度 事業計画

勤務部会

目的 勤務部会員への情報提供をおこない、会員間の繋がりを図ることで会員数を増やす。

目標	計画・具体策	評価
<p>1.勤務部会担当研修会は、アドバンス申請に該当する要件選択をし、情報の提供を図り参加者を増やす。</p> <p>2.会員間の繋がりを図るため、情報の提供をおこなう。</p>	<p>1.</p> <p>1) アドバンス助産師必須研修の「新生児のフィジカルアセスメント」を選択</p> <p>2) 勤務部会 BAND やホームページ等で研修会参加を周知する。</p> <p>3) 勤務部会員で、各病院施設勤務場所に研修会のアピールをしてもらう。</p> <p>2.</p> <p>1) 近畿地区研修会の情報提供をおこなう。</p> <p>(1) 三部会だよりや勤務部会 BAND、ホームページで呼びかける。</p> <p>(2) 各勤務施設へ、会員より情報提供をおこなう。</p> <p>2) 災害時の安否確認及び情報提供をおこなう。</p> <p>(1) 会員間の共有するツールへの参加をしてもらう。</p> <p>(2) 部会集会で情報の提供をおこなう。</p> <p>(3) 昨年度の安否確認より、現実的におこなえる確認方法を考える。</p> <p>3) 勤務部会集會をおこない情報の共有をする。</p> <p>(1) 日本助産師会勤務助産師部会集會情報を伝える。</p> <p>(2) 部会集會を開催する。</p>	

2024 年度 事業計画

広報委員会

目的 ホームページの編集や三部会だよりの発行・SNS 発信を通して当会の認知向上及び専門的な情報発信による社会的貢献を果たす。

目標	計画・具体策	評価
<p>1.ホームページを充実させることにより、最新の情報提供ができ、会員の専門性向上のための新しいツールとして定着させ活用を促進することで、魅力ある奈良県助産師会をPR する。</p>	<p>1. 1)ホームページの検索数をのぼす。 (1)ホームページ検索状況の調査および検索数アップの工夫を考え実践する。 (2)情報提供に関してタイムラグが生じず、適切な時期に伝えられるように、各委員にイベント報告や研修会報告など随時ホームページへの掲載や SNS 掲載を提案していく。 (3) 会員以外の閲覧数を増やす。母親向け情報の発信を増やす。 (3)チラシ(前年度 800 部作製名刺サイズ)の配布を行う。 (4)助産所のホームページなどにリンクを依頼する。 2)部会・委員会・係の依頼を受け、校正・掲載作業を迅速に行う。 3)ホームページパトロール(各月担当制で随時)を行う。今後ホームページ掲載原稿にはすべて掲載期限をつけて掲載する。(削除の時期の把握目的) 4)編集作業のマニュアルをより良いものに随時更新していく。(係員誰もが担当できる為) 5)三部会だよりを年 1 回発行(7 月) (1)郵送希望者 20 名。希望者には引き続き郵送を続けホームページ以外の会員確保を目指す。</p>	

<p>2.SNS を利用して当会活動内容及び専門的な情報発信を安全に行う</p>	<p>2.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)当会の活動状況や内容をタイムリーに発信する 2)各部会・委員会・係りから依頼があれば連携して発信を行い、必要時各部署へ投稿の提案をする 3)チームで投稿を企画 <p>(1)助産所紹介を動画や写真を工夫してアップデート (2)妊娠出産育児や母子に関する最新情報など 4)SNS 運用規約、マニュアルの徹底と更新</p>	
<p>3. Instagram フォロワー数 300 達成とリーチ数をフォロー数以上維持</p>	<p>3.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)投稿頻度を上げ、ストーリーズを毎週引用していく 2)ハッシュタグの工夫 	
<p>4. SNS 運用メンバー1名増員</p>	<p>4. 当会の BAND を利用して随時投稿の周知及び研修会などでの運用の紹介を実施</p>	

2024 年度 事業計画案

教育委員会

目的 助産師の専門職業人としての能力を維持・向上させ、安全、安楽な助産ケアを遂行させる為に専門性の高い知識・技術を習得できる機会を提供する。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 助産師としての資質を高める研修を計画・開催し、より多くの参加を募る。</p>	<p>1.-1) 継続的・長期的視野で、又会員の要望する研修会を各部会で検討し、企画する。 ※資料② 2024 年研修計画案 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導部会 「発達障害の児をもつ家族への支援:ABA 入門」 ・勤務部会 「新生児から乳児期のフィジカルアセスメント」 「新生児から乳幼児の皮膚ケア」 ・役員会（奈良県助産師会必須研修） 「個人情報」 ・助産所部会 近畿地区研修の研修内容を提案 ※全研修をオンラインで開催。 <p>1.-2) 日本助産師会会員マイページシステムを活用し、他府県の会員率をあげる。</p> <p>1.-3) オンライン視聴の参加者も、録画視聴も可能にし、研修会の参加率を上げる。</p>	
<p>2. 産後ケア実務助産師の増加、各施設での産後ケア内容の拡充を図る研修を意図的に企画する。</p>	<p>2.-1) 各部会が企画する研修会の内容が、産後ケア実務助産師に該当するように各部会の支援、講師交渉を行う。</p>	
<p>3. 研修会の周知を行い参加者の増加を図る</p>	<p>3.-1) これまでのSNSを活用した広報活動と、日本助産</p>	

<p>4. スムーズで円滑な研修会を開催する。</p>	<p>師会の会員システムの導入で、参加人数を増加させる。</p> <p>4.-1) 委員会活動のスリム化、働き方改革を行い、参加人数が増加しても、円滑に運営できる体制を作る。</p> <p>-2) 近畿地区研修会の成功にむけて、教育委員の研修運営方法など、実行委員のサポートを行う。</p>	
-----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

奈良県助産師会 2024年度 研修計画案

5/25(土) 奈良県助産師通常総会 ・ 7/28(日) 奈良県母性衛生学会

2024.3.24

テーマ案	講師案	日程	方法 場所	参加費	申込開始 締切	担当部会	備考
発達障害を持つ児の 保護者や家族への支援 応用行動分析学ABA入門	アジアパシフィックABAネットワーク 代表理事 田中桜子氏	6月15日(土) 13:30~16:30	オンライン 録画視聴あり (サカタ印刷)	会 員 3,000円 非会員 5,000円 学 生 1,000円	2024.5.4 ~6.1	保健指導 部会	選択研修 産後ケア 開業助産師ラダー I 科目1
①新生児から乳児期のフィジカルアセスメント ②新生児から乳児期の皮膚ケアについて	大和高田市立病院 小児科 ①副院長 川口千晴医師 ②小児科医長 池田聡子医師	9月28日(土) 13:30~16:30	オンライン	会 員 3,000円 非会員 5,000円 学 生 1,000円	2024.8.17 ~9.14	勤務部会	選択研修 産後ケア 開業助産師ラダー I 科目1
近畿地区研修会 in 奈良 <<テーマ 助産師の原点回帰 >> 11月16日(土) 8:30~17:00 1日開催							
①	取材するほどふくらんでいく 助産師さんへの期待	出産ジャーナリスト 河合 蘭氏	10:10~11:40 (90分)	オンライン 録画視聴あり ①サカタ印刷 ②心友助産院	未定	近畿地区 研修実行 委員会	選択研修
②	安全安心な無痛分娩のために 助産師ができること	奈良県立医科大学産婦人科 (総合周産期母子医療センター) 助教 牧野祐子先生	13:10~14:40 (90分)				選択研修
③	周産期メンタルヘルス ~助産師さんの役割とは~	信州大学医学部 周産期のこころの医学講座 講師 村上寛先生	14:55~16:55 (120分)				選択研修 産後ケア 開業助産師ラダー I 科目3
奈良県必須研修 個人情報		未定	R7.1月頃	オンライン	会 員 3,000円 非会員 5,000円 学 生 1,000円	役員会 安全委員会	

2024 年度 事業計画

組織強化委員会

目的 個人情報に安全に管理し、個人情報の安全・助産師の専門職団体であることをアピールし新規の会員確保に努める

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 組織強化委員だれもが個人情報の管理を安全に確実にしながら会員情報を管理し、会の運営に携われるように組織強化委員会業務マニュアルを作成する</p> <p>2. 個人情報を安全に取りあつかう</p> <p>3. 会員数の増加に努める</p>	<p>1.</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 組織強化委員会業務マニュアルの作成 ② 出来上がったマニュアルをもとに業務を行いマニュアルの改善を図る <p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 紙ベースによる情報のやり取りを極力減らすとともに紙ベースの情報の処理について検討しマニュアルに明記する ② 現在までの紙ベースの情報を安全に処理する ③ 安全管理研修等、個人情報の取り扱いに関する研修に積極的に参加し、学んだ内容を業務に活かしていく <p>3.</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研修会など対面でのイベントの機会に助産師会の紹介と入会勧誘を行う ② 看護協会の復職支援セミナーなどの他の団体のイベントにも積極的に参加し助産師会の PR につとめ入会勧誘を行う ③ 過去の退会理由をもとに会員確保に必要なことを探り実行に移していく 	

<p>4.災害時の会員情報等の利用と管理について考えていく</p>	<p>4.</p> <ol style="list-style-type: none">1) 業務マニュアルに災害時の管理情報使用について明記する<ol style="list-style-type: none">① 災害時どのようなことが起こりうるかを考え、災害時に会員情報をどのように利用できるかを考えていく② 災害時の会員情報利用基準を定める③ 災害時の会員情報利用に際し個人情報を守る利用基準を作成する2) 災害時を見据えた会員情報の管理方法を考える<ol style="list-style-type: none">① 災害時に情報の流出を起こさないような日常からの会員情報の保存方法を考える	
-----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

2024 年度 事業計画

安全対策係

目的 会員の安全意識と会全体の安全文化の向上
業務環境の安全管理

目標	計画・具体策	評価
<p>1 安全文化の醸成</p> <p>1) リスクマネジメントへの意識づけ 2) リスクマネジメントの知識を高める</p> <p>2 個人情報取り扱いに関する知識を高める</p>	<p>1-①安全必修研修会の実施</p> <p>②奈良県医療安全推進センター主催研修会への参加 (特に概論的テーマの研修会への会員の積極的な参加を促す)</p> <p>③総合周産期センター、地域周産期センター主催の症例検討会への参加</p> <p>④助産業務安全管理評価表の運用 施設開設者への第三者評価(11月報告予定) 訪問型会員は自己評価</p> <p>⑤保健指導部会、助産所部会のインシデント、アクシデント報告のまとめ及びフィードバック</p> <p>⑥助産所部会の転院、搬送報告のまとめ 周産期医療年報報告 奈良県産婦人科医会への報告</p> <p>2-①個人情報取り扱いについての研修会開催</p>	

2024 年度 事業計画(案)

健康教育係

目的 目的1:安全で対象者のニーズに応じた、より良い出前講座を開催する。目的2:講座担当者確保に努め、研鑽による講師力の向上をはかる

目標	計画・具体策	評価
1. 1) 感染対策の順守 2) 個人情報の保護 3) 教材の整備と保守管理 4) マニュアルの整備 5) ニーズの把握・評価	1. 1)-(1)感染予防マニュアル順守はかるため担当者会議で周知する 1)-(2)感染対策物品の確保・管理を行う 2)-(1)個人情報保護に関する会の研修を受講勧奨する 2)-(2)公文書ならびに報告記録の確認と保管管理を行う 3)-(1)講座後の点検、必要時には修繕を実施 3)-(2)教材使用予定、所在(受け渡し・返却)の把握 3)-(3)教材の整備を行う:布教材の再作成(説明用布教材)、体験教材の修復(胎児人形修理) 4) 担当者マニュアルの改訂を行う 5)-(1) 講座後アンケートの集計・評価から、ニーズの把握と講座内容の改善点を模索する。 5)-(2) 依頼先へ周知をはかりアンケート回答率を向上 回答率 80%以上をめざす	
2. 1) 広報等による周知・募集 2) 他団体の研修会への参加 3) 講座担当者間の交流	2. 1) 会員へ、HPによる活動内容の周知・講座見学の勧奨など広報を行い講座担当者の確保につなげる 2) 日本家族計画協会等、活動に関連する他団体の研修会への参加勧奨・助成を行い、学びの共有など研鑽できる機会をつくることで講座担当者の育成や講師力向上をはかる 3)-(1)担当者 Band 活用や担当者会議での情報共有時間を確保する	

4)メイン講師の維持・確保	3)-(2)交流会開催により情報や経験・知識の共有をはかり、講師力向上、モチベーション維持につなげる 4)-(1)活動中のメイン講師数(7名)を維持しつつ、さらなるメイン講師の育成・確保に努め、新たなメイン講師が1名以上活動スタートすることをめざす 4)-(2)依頼先との調整を行うとともに、講座開催に関する作業内容等の改善を模索し、講座担当者の負担軽減を図る	
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

目的

子育て世代への多様化する支援・役割を担う

目標	計画・具体策	評価
<p>1. ホームページの子育て情報の定期的更新と最新情報の発信</p> <p>2. 当会 Instagram への子育て情報発信を SNS チームや各部署と連携して実施</p> <p>3. 子育て支援に関する講座やイベントの受託</p>	<p>1.</p> <p>1) 子育て支援内容を最新情報に更新</p> <p>2) 助産所マップのページの写真変更や各助産所の SNS をリンクさせるなど見やすさとアクセスしやすさの工夫を実施</p> <p>2.</p> <p>1) 現在助産所マップ掲載中の助産所または新規掲載助産所に協力を得て、SNS 上に新たな助産所情報を発信 (写真の更新、動画を入れる等投稿内容をアップデート)</p> <p>2) 係りでシリーズ化した母子支援情報を考案して SNS 上に発信 (妊娠・出産・産後・子育て編など)</p> <p>4) 当会主催研修会での母子支援に関する学びや情報を共有できるよう SNS 上にて発信</p> <p>3.</p> <p>妊娠出産、育児、親子関係、親役割など安心して子育てできる内容の講座やイベントを広報。</p> <p>講師は会員より募集。</p>	

2024 年度 事業計画(案)

委託訪問係

目的 母子とその家族に適切な支援ができる。一定レベルの指導員を市町村に提供し、連携を行う事により各指導員が円滑に訪問業務が遂行できる。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 委託訪問事業継続のために、訪問指導員数の増員・維持に努める。</p> <p>2. 各市町村との契約を円滑に遂行できるように会と市町村との連携を図る。</p> <p>3. 個人情報保護</p> <p>4. 指導員証の変更</p>	<p>1. 各指導員・HP の活用に対し新規指導員の募集依頼育成の協力行う。</p> <p>1) 部会集会や各市町村で、相談・意見交換ができるようにサポートする。</p> <p>2. 委託市町村が開催する訪問指導員連絡調整会議に年 1 回以上出席し、各市町村の動向や要望の把握を行う。</p> <p>1) 契約書(案)に関しては、メールでいただけるように依頼する事で会長への確認依頼が迅速に行え、本契約への依頼をスムーズにする。</p> <p>3. 訪問指導員が各契約書とそれに添付されている個人情報に関する文面を訪問時には常に確認できるようにする。契約書に明記されていない業務は市町村から受けない事を徹底する。</p> <p>4. 指導員証の内容の見直し・改訂の検討 (現在は指導員証に会長名を記載しているが、会長変更時は旧会長名が記載されている指導員証になるため、日助の会員証に準じ会長名は記載しない)</p>	<p>1.</p> <p>2.</p> <p>3.</p> <p>4.</p> <p>5.</p>

目的

不妊,不育に悩む女性やその家族の支援と支援にかかわる助産師会会員が不妊不育に関する最新情報を得ることに努めることができる

目標	計画・具体策	評価
1.不妊,不育に関する最新知識や現状を把握し最新情報を得るための学習や研鑽を深める。 2. 不妊不育に悩む女性を支援する助産師の理解力向上のための活動を行う。 3.今後の詳細な活動について、メンバー間で検討する。	1)不妊関連の研修会に積極的に参加し、知識理解を深める。生殖心理学会への参加予定 2)メンバー間の情報共有のため メンバー間の情報交換を活発に行う 1) 不妊不育に関する現状と支援の在り方について助産師会会員が理解を深めていくことができるような活動の在り方を検討する 例) 研修会、広報でのアナウンスなど 2) 令和6年度末までに、これまでの相談事業の実績をまとめて報告する。	

